



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県・田村市】

1 実践テーマ	【II・III・V】
2 実施対象者	福島県立たむら支援学校 高等部生徒15名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (おもてなし講座・フライングディスク交流学习・ストリートダンス交流学习)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>【おもてなし講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルマナーとおもてなしの心を学ぶことで、自己の確立を目指し他者を受容して臆することなく積極的に海外からのお客様をお迎えするスキルを体得する。 ・礼節を重んじ助け合って生きる日本の国民性を生かし、異文化を尊重しながら他者を思いやる心とボランティアマインドを醸成する。 ・あいさつや返事、身だしなみの大切さを知り、演習をとおして日常生活や喫茶接遇に生かすことのできるコミュニケーションスキルを体得する。 <p>【フライングディスク交流学习】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船引高等学校の生徒との交流をとおして、両校生徒の相互理解を図る。 ・フライングディスク競技の活動をとおして、障がい者スポーツの意義と共生社会についての一助とする。 <p>【ストリートダンス交流学习】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に準拠した内容で、ヒップホップのリズムを活用しながらダンスの基礎を体験することができる。 ・船引高等学校との交流及び共同学習の一環として実施することで、社会性を養い、豊かな人間性を育む。
5 取組内容	<p>【おもてなし講座】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・筑波大学客員教授の江上いずみ氏による講演を実施。「グローバルマナーとおもてなしの心得」について学習した。 ・相手の目を見てやりとりすることや、握手のマナー等コミュニケーションスキルの基礎を学習した。 ・学習発表会で実施する喫茶サービスについて、接客マナーの基礎学習と喫茶接遇のポイントを踏まえた実践練習を行った。

【フライングディスク交流学習】



- ・船引高等学校生徒35名と本校高等部生徒15名が、フライングディスクをとおして交流学習を行った。
 - ・フライングディスクの持ち方や投げ方、ルールについて学習した。
 - ・船引高等学校生徒が6チーム、本校高等部生徒が3チームに分かれ、フライングディスク対抗戦を行った。
- 【ストリートダンス交流学習】



- ・船引高等学校生徒35名と本校高等部生徒15名が、ストリートダンスをとおして交流学習を行った。
- ・日本ストリートダンス協会より派遣された、佐藤雄二氏による振り付け指導を受けた。
- ・船引高等学校生徒と本校高等部生徒の混合グループを5つ編成し、振り付けの練習を行い、発表会を実施した。

6 主な成果

【おもてなし講座】

- ・講演で学んだ、物を受け取る際に相手の目を見てやりとりすることや、ノックは4回すること等を日常生活に取り入れて実践する姿が見られている。
- ・田村市とホストタウンのネパール代表が、本校近くの競技場で合宿を行うことを知り、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じることができた。
- ・喫茶接遇の実践練習をとおして学んだ品物を提供した際に手添えをすること等を、学習発表会に向けた喫茶練習において実践する姿が見られた。

【フライングディスク交流学習】

- ・両校の生徒にとって、互いを知る良い機会になった。
- ・対抗戦の運営では、ディスクを渡す係や記録係、ディスクを回収する係を生徒同士で行うことにより、両校の生徒同士の自然なやりとりの中で相手を思いやり、協力したりする姿が見られた。

【ストリートダンス交流学習】

- ・両校の生徒混合でのグループ練習や発表を行ったことで、生徒同士が積極的にコミュニケーションをとりながら活動する姿が見られた。
- ・生徒の興味関心の高い題材を設定したことで、主体的に活動に取り組み、身体を動かしながら運動の良さを味わう中で自然に交流することができた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- ・生徒にとって有意義な学習を積むことができるように、生徒に身につけたい力や必要とされる力から題材設定や学習内容を検討し、講師選定を行った。
- ・オリンピック・パラリンピックに対する関心を高めることができるように、会場にオリンピック・パラリンピックのマスコットキャラクターを掲示した。

8 主な課題等

- ・オリンピック・パラリンピアン等の競技者による講演及び実技指導も検討したが、予算の都合上断念せざるを得なかった。
- ・オリンピック・パラリンピックへの興味関心をもつことについては、一定の効果が得られたが、持続するために学習を連続して展開することが難しかった。

9 来年度以降の実施予定

- ・船引高等学校との交流学習については、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築に繋がる効果的な取り組みであったことから、次年度以降も継続して実践していく。